

科目名		財務会計論Ⅱ (Financial Accounting Ⅱ)								
学年	学科(コース)	単位数		必修/選択	授業形態	開講時期	総時間数			
第4学年	経営情報学科	学修	1単位	必修	講義	後期 100分/週	45時間			
担当教員		【常勤】苗馨允								
学習到達目標										
科目の到達目標レベル	会社が公開した財務諸表が誰にとってどのような役割を果たしているのかについて学ぶ。講義では、会社を設立して営業を行っていく上で、必要となる会計の知識、会計の処理について説明する。また、会計基準の国際化の流れが日本企業の会計活動および経営活動に与える影響を考慮して授業を行う。必要に応じて事例を取り上げて、会計上の問題を説明する。									
学習・教育目標	(C)①	JABEE基準1(2)			(d)-(f)					
関連科目、教科書および補助教材										
関連科目	簿記概論Ⅰ・Ⅱ、原価計算論Ⅰ・Ⅱ、経営財務論Ⅰ									
教科書	「財務会計入門」桜井久勝・須田一幸著（有斐閣）									
補助教材等	プリント(演習問題)									
達成度評価 (%)										
評価方法		中間試験	期末・学年末試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品	ポートフォリオ	その他(発言)	合計
指標と評価割合										
総合評価割合		40	40						20	100
知識の基本的な理解【知識・記憶、理解レベル】		◎	◎						◎	/
思考・推論・創造への適用力【適用、分析レベル】		○	○						○	
汎用的技能【 】		○	○						○	
態度・志向性(人間力)【 】										
総合的な学習経験と創造的思考力【 】										
学習上の留意点、学習上の助言										
1・2年生の頃学習した商業簿記について復習しておくこと。また、前期の財務会計論Ⅰで学習した知識を復習しておくこと。										

授業の明細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	0 ガイダンス 1 販売活動	<ul style="list-style-type: none"> ・売上・収益認識の基準について理解できる。 ・売上原価の計算方法について理解できる。 ・売上代金の回収による貸し倒れについて理解できる。 ・棚卸資産の期末評価の方法について理解できる。 	(予習) 各基準及び会計処理の方法を理解すること。 (復習) 様々な取引について適切な基準を適用し、会計処理できること。
2			
3			
4	2 設備投資と研究開発	<ul style="list-style-type: none"> ・固定資産の種類を理解できる。 ・有形固定資産の取得原価を計算できる。 ・有形固定資産の減価償却の意義、方法について理解できる。 ・研究開発費の会計処理及び無形固定資産について理解できる。 	(予習) 固定資産の種類と減価償却の方法を理解すること。 (復習) 練習問題ができること。
5			
6	3 資金の管理と運用	<ul style="list-style-type: none"> ・余剰資金をどのように運用されているかを理解できる。 ・現金及び預金に関する取引及び会計処理を理解できる。 ・有価証券の分類と評価基準を理解できる。 	(予習) 資金管理に関する取引と会計処理を理解すること。 (復習) 練習問題ができること。
7			
8	中間試験		
9	答案返却・解答解説 4 国際活動	<ul style="list-style-type: none"> ・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。 ・外貨換算の取引と会計処理について理解できる。 ・為替リスクの管理方法について理解できる。 ・在外支店・子会社の財務諸表の換算について理解できる。 	(予習) 企業活動の国際化に伴う会計問題を理解できる (復習) 練習問題ができること。
10			
11			
12	5 税金	<ul style="list-style-type: none"> ・課税所得計算が理解できる。 ・税効果会計が理解できる。 ・確定決算主義が理解できる。 	(予習)(復習) 税金に関する法律と会計処理が理解できること。
13	6 配当	<ul style="list-style-type: none"> ・剰余金の配当について理解できる。 ・配当規制と債権者保護について理解できる。 ・剰余金の処分について理解できる。 	(予習) 配当の規制と剰余金の処分を理解できること。 (復習) 練習問題ができること。
14			
15	答案返却・解答解説 授業改善アンケート実施	<ul style="list-style-type: none"> ・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。 	
総学習時間数			45時間
講義			25時間
自学自習			20時間